

# 越冬キャベツ・・・Ⅱ

担当者 技能研究員 脇澤 敏生

試験課題名	ホウ素肥料の枯れ葉対策		
目的	ホウ素肥料の導入により枯れ葉の発生について調査する		
期待される成果	品質低下を起こす枯れ葉の発生を軽減させる		
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所	JA北ひびき和寒基幹支所	
	和寒町蔬菜組合連合会キャベツ部会	片倉コープアグリ株式会社	

## 1 供試品種・資材

品種

冬 駒(タキイ)

## 2 耕種概要

土 壤 ~ 灰色低地土(埴壌土)

前 作 ~ ジャガイモ

播 種 日 ~ 6月18日 定 植 日 ~ 7月14日 収 穫 日 ~ 11月9日

栽植密度 ~ 畦幅60cm×株間45cm 3,703株/10a当たり

試験区面積 ~ 0.12a(2.4m×4.95m) 6株を収穫し調査 無ホウ素区を基準として調査

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	CaO	ホウ素	熱水抽出N
6.4	0.048	68	38	55	472	0.6	5.9

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

堆 肥 ~ 1,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量/%)

ホウ素区

基 肥 ~ 硫酸アンモニア ( 21 - 0 - 0 ) 7月10日 全層施肥

粒状過磷酸石灰 ( 0 - 17.5 - 0 ) //

硫酸カリ ( 0 - 0 - 50 ) //

PKB 硫 カ ル ( 0 - 5 - 5 - B 0.6 ) //

追 肥 ~ 硫酸アンモニア ( 21 - 0 - 0 ) 9月8日 側条施肥

無ホウ素区

基 肥 ~ 硫酸アンモニア ( 21 - 0 - 0 ) 7月10日 全層施肥

粒状過磷酸石灰 ( 0 - 17.5 - 0 ) //

硫酸カリ ( 0 - 0 - 50 ) //

追 肥 ~ 硫酸アンモニア ( 21 - 0 - 0 ) 9月8日 側条施肥

### (4) 肥料の要素量

ホウ素区

		N	P	K	B
基 肥	硫酸アンモニア 90kg	18.9	-	-	-
	粒状過磷酸石灰 57kg		9.9	-	-
	硫酸カリ 20kg	-		10	-
	PKB硫カル 60kg	-	3	3	0.36
分 肥	硫酸アンモニア 27kg	5.6	-	-	-
合 計		24.5	12.9	13	0.36

無ホウ素区

			N	P	K
基 肥	硫 酸 ア ン モ ニ ア	90kg	18.9	-	-
	粒 状 過 磷 酸 石 灰	76kg	-	12.9	-
	硫 酸 カ リ	26kg	-	-	10
分 肥	硫 酸 ア ン モ ニ ア	27kg	5.6	-	-
合 計			24.5	12.9	13

4 調査項目

収 量 調 査 ～ 総重量・調整重・調整率・調整収量・規格内割合・障害  
 特 性 調 査 ～ しまり・球径・球高・緑色・球形指数・糖度(Brix)  
 枯 れ 葉 調 査 ～ 収穫時・1月中旬・2月中旬

5 収量調査

項目	品種	無ホウ素	ホウ素
総重量 ( kg / 玉 )		1.71	1.47
調整重 ( kg / 玉 )		1.23	1.11
調整率 ( % )		72	75
調整収量 ( kg / 1 0 a )		4,549	4,110
規格別割合 (%)	3 玉	0	0
	4 玉	0	0
	5 玉	0	0
	6 玉	0	17
	7 玉 ～ 8 玉	17	17
	9 玉 ～ 10 玉	83	66
障 害 ( 球 )	病 害 虫	0	0
	障 害 玉	0	0

6 特性調査

項目	品種	無ホウ素	ホウ素
外 観	緑 色 ( 良 5 ～ 不 良 1 )	3	3
	し ま り ( 良 5 ～ 不 良 1 )	3	3
	球 径 ( cm )	17.2	16.7
	球 高 ( cm )	11.6	9.2
	球 形 指 数 ( % )	67	55
11月 調 査	枯れ葉(個)	1	0
	糖 度 ( Brix )	8.8	8.6
1月 調 査	枯れ葉(個)	2	0
	糖 度 ( Brix )	9	8.7
2月 調 査	枯れ葉(個)	0	0
	糖 度 ( Brix )	8.8	8.6

7 病虫害防除履歴

殺 虫 剤		殺 菌 剤	
7月9日	プレバソンフロアブル5(灌注処理) 100倍		
8月13日	ハチハチ乳剤 1,000倍		
9月2日	プレバソンフロアブル5 2,000倍	9月2日	スミレックス水和剤 2,000倍
9月18日	アディオン乳剤 2,000倍		
		10月16日	ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000倍

8 試験結果概要

重量、調整重、収量では無ホウ素区が高かった。規格割合では大きな差はなかった。外見やしまり具合に違いは見れなかった。病虫害の被害もほとんどなかった。11月の調査では、糖度は無ホウ素区が高かったものの大きな差はなかった。枯れ葉は無ホウ素区で1球確認した。ホウ素区では確認出来なかった。1月の枯れ葉調査では、無ホウ素区で2玉確認した。ホウ素区では確認出来なかった。糖度調査では11月よりも糖度が上がっていた。2月の調査で枯れ葉は確認されなかった。糖度は少し下がっていた。両区ともに総重量が低かった。基肥の効果が切れる前に追肥できなかったことが原因と考える。